



2019年5月9日

各 位

東京都港区海岸1丁目2番20号  
株式会社 システナ  
代表取締役社長 三 浦 賢 治  
(コード番号：2317 東証第一部)  
問い合わせ先 常務取締役 甲 斐 隆 文  
電話番号 03 ( 6367 ) 3840 ( 代 )  
U R L <https://www.systema.co.jp>

## 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2023年度（2024年3月期）を最終年度とする中期経営計画を策定いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

### 1. 中期経営計画策定について

システナグループでは、新たに2024年3月期に向けて中期5カ年計画を策定しました。5年後の業績は連結売上高1,010億円、営業利益152億円、生産性を20%向上させて営業利益率15%、ROE25%を目標とします。この目標の達成に向けて、営業強化、自社商材・自社サービスの拡充、成長分野への集中投資、既存事業のスクラップアンドビルドを行うとともに、アメリカでの投資育成事業であるIoTビジネスと暗号化セキュリティ事業を通じて海外事業への積極展開を行ってまいります。

### 2. 経営方針

#### 【データ経営にて生産性向上】

システナグループでは、データ経営を中期5カ年計画達成のための経営の大方針としてまいります。

データ経営とは、顧客ニーズの早期掌握と事業のスクラップアンドビルドを迅速に行うために、精度の高い原価管理とリアルな損益を早期掌握することですが、これを実現するには日々の事業活動で発生する膨大なデータに基づく統計的な思慮による経営が必要であると考えます。自社開発したCanbus. IoTプラットフォームにて構築したIT経営システムにてデータ経営を実現します。

IT経営システムとは、日々の事業活動を通じて蓄積される営業データ、労務データ、財務データ、仕入れ外注データ等を統計的に蓄積し、AI機能を駆使して月末を待たずして各プロジェクトや各受注案件の損益を掌握し、システナグループの経営資産を最大限に引き出して利益に繋げるための資産管理システムです。

勘や経験だけでは乗り切れない中期5カ年を、Canbus. IT経営システムにて経営データの見える化とAI予測により数値化された経営情報をもとに、徹底した生産性の向上を図り利益の最大化を目指します。

具体的な生産性向上の数字としては、一人当たりの営業利益額を2019年3月期実績の216万円から2024年3月期に260万円（20%増）とすることを目指します。

### 3. 業績目標

(単位：百万円)

	2018年度 (2019年3月期実績)	2023年度 (2024年3月期実績)
売上高	59,742	101,000
営業利益	6,902	15,200
営業利益率	11.6%	15.0%
一人当たり営業利益額	2.16	2.60
ROE	24.6%	25.0%

以上